

【京都大学×助太刀総研 共同研究プロジェクト】 技能労働者の賃金決定要因に関する実態調査を実施

建設業界に従事する全ての人たちを支えるマッチングプラットフォーム「助太刀」を運営する株式会社助太刀(所在地:東京都新宿区 以下「当社」)が運営する助太刀総合研究所(以下、「助太刀総研」)は、京都大学 金多・西野研究室と共同で、建設業の技能労働者の賃金決定要因について実態調査を行いました。この度、調査結果レポートを公開しましたので、概要をお知らせいたします。

調査結果レポート: <https://souken.suke-dachi.jp/blog/c-4mdyyuc>



■調査概要

調査方法:『助太刀』アプリ内におけるWebアンケート調査

調査対象:『助太刀』アプリに登録のある建設業従事者(有効回答者:486事業者)

調査期間:2024年1月24日~2024年2月23日

実施主体:助太刀総合研究所、京都大学 金多・西野研究室

■調査結果

- 取引先との価格交渉の有無は、賃金・単価決定に大きく影響しない。資格有無についても、一部で資格による上昇が見られたものの、資格を保有していても必ずしも単価が上がるわけではない。
- 収入を上げるためには、取引先を増やして案件を選択できるようにすること、技能者の技術の向上による付加価値を提供すること、効率的な仕事による生産性の向上、コミュニケーション技術や信頼関係の構築がポイントとなる。

3. 収入を上げる阻害要因としては、「技術が追いついていない」「スキルアップの努力が足りない」「道具の投資をしない」といった回答が見られ、自身の技術力や希少な製品への対応など、仕事のための自己研鑽が重要と考えられる。

■ まとめ

建設業界では技能労働者の賃金決定に際して、暗黙の了解として賃金が決定されている側面があり、どのようなことをすれば賃金を上げることができるのかが明確にされていません。本調査は、技能労働者が請けた案件の単価に着目し、技能労働者の賃金状況の実態を確認しました。定量調査ならびにインタビューにより賃金の決定要因を明らかにし、賃金上昇のために必要な要素の手がかりを見つけ、処遇改善の一助となることを目指して実施しました。

今回の調査結果からは、価格交渉の有無が必ずしも賃金決定の大きな要因ではないことがわかりました。ポイントとして、「希少性・技術力」「取引先の開拓」「顧客との信頼関係」が挙げられます。

自社の水準で契約できるケースでは、希少技術や高い技術力が背景にあり、交渉よりも職種の希少性や技術力が大きく影響します。また、発注者と受注者間の信頼関係構築も重要で、コミュニケーション能力の向上が求められます。ただし、同じ顧客からの継続受注は難しく、競合他社の出現も考慮すると、取引先の開拓も重要と言えます。特に独立したての場合には信頼を得るための実績も必要なため、マッチングサービスや自社ホームページなど幅広く開拓経路を持つことが重要だと考えられます。

■ 助太刀総合研究所について

『助太刀総研』は、「建設現場を魅力ある職場に。」というミッションのもと、外部の有識者および第三者機関と共に、建設業界の潮流を捉え、現状や可能性をあらゆるデータを用いながら可視化し未来における建設業界の在り方を研究する組織です。

当社が提供するサービスで得た知見を活用しながら、トレンドや実態調査を含むマーケットリサーチ、有識者を招聘しての勉強会や対談などを通じて、建設業界を魅力ある職場にするべく取り組んで参ります。

『助太刀総研』: <https://suke-dachi.jp/souken/>

■ 会社概要

社名: 株式会社 助太刀

代表者: 代表取締役社長 兼 CEO 我妻 陽一

所在地: 東京都新宿区西新宿6-18-1 住友不動産新宿セントラルパークタワー14階

設立: 2017年3月30日

資本金: 90,000,000円

事業内容: インターネットを利用したサービスの企画、制作および運営

URL: <https://suke-dachi.jp/company/>

■本プレスリリースに関するお問い合わせ先

助太刀総研

担当: 植村

TEL: 03-6258-0906

Email: pr@suke-dachi.jp